（専門科目）

科目名	特別講究（教育臨床心理学） 英語名：Special Seminar on Educational Psychology	必修/選択	選択必修	
		単位数	2単位	
		担当教員	芳川玲子	

【授業概要】

本科目では、学校教育の中で発生する諸問題を臨床心理学の視点を取り入れ、教育心理学と臨床心理学の二つの視点を身につけることを目的とする。そのため、授業の第Ⅰ段階では、まず自身の現場をテーマに児童生徒個人、教育、組織、それを取り巻く環境について検討をしていただく。その客観視から教育心理学と臨床心理学の結びつきを学修する。さらに、第Ⅱ段階では、小中高等学校および大学の各段階の教育心理学と臨床心理学の課題を中心に学ぶ。第Ⅲ段階では、世界の教育体制と日本の違いを意識して比較し、最終的に総括として、再度、自身の現場に立ち返り、その課題の解決と展望を検討し、博士論文に生かす。

【キーワード】

教育臨床心理学、子どもの心の理解、発達支援、学校メンタルヘルス

【授業の到達目標】

1　自身の現場の状況（児童生徒、教育、組織、取り巻く環境）について客観的に理解できる
2　各校種の課題とそれを臨床心理学の視点からの理解ができる
3　自身の理解に基づき、それを研究テーマに結びつきながら、論文の中で展開できる

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】　スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

回	内　容
1	ガイダンス：本科目の目的・学修内容・到達目標【SC】
2	日本の小中学校・高等学校・大学の現状
3	学修Ⅰ－1：自身の教育現場の児童生徒の状況を検討する
4	学修Ⅰ－2：自身の教育現場の教育上の特色を検討する
5	学修Ⅰ―3：自身の教育現場の組織的な特色を検討する
6	学修Ⅰ－4：自身の教育現場を取り巻く環境を検討する
7	学修Ⅰ－5：自身の教育現場についての包括的な検討【SC】
8	学修Ⅱ－1：小学校の教育および臨床上の課題
9	学修Ⅱ―2：中学校の教育および臨床上の課題
10	学修Ⅱ―3：高等学校の教育および臨床上の課題
11	学修Ⅱ―4：大学の教育および臨床上の課題
12	学修Ⅱ―5：小中高校および大学の教育と心理学的課題を総括する【SC】
13	学修Ⅲ―1：世界の教育と日本の課題（欧米諸国を中心に）
14	学修Ⅲ－2：世界の教育と日本の課題（アジア圏を中心に）

15	学修内容の総括と学生自身の現場の展望の検討【SC】
試験	

【履修にあたっての準備・履修上の注意点】

初回のスクーリング受講後は、指定のテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。詳細は初回のスクーリング時に相談と情報提供を行う。

【スクーリングでの学修内容】

・スクーリングは学生の状況に合わせて 4 回程度実施し、合計 6 時間以上をめどに行う。
・スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や概要を知り、この科目を通して何を目指すかを学生と教員の相互で確認する。
・学修中期の 2 回目のスクーリングは、学生自身の教育現場での情報の共有を通じて、学生自身が抱えている課題や問題意識を確認することを目的とする。そのため、スクーリング前に指摘テキストの学修と、自身の教育現場のまとめのミニレポートを作成し、スクーリングでの双方向の議論を踏まえて、事後に、ミニレポートの改定版をレポートとしてまとめる（レポート 1)。
・学修後半の第 3 回目のスクーリングでは、小中高等学校および大学の現状と課題を臨床心理学の視点で解析できるかについて確認するためのものである。
・第 3 回目のスクーリング後から、最後のスクーリングの前までに、各種学校の課題を踏まえ、自身の研究テーマと関連したレポート（レポート 2）を作成する。
・学修最後のスクーリングでは、事前に提出されたレポートを元に相互討議を行う。このスクーリングでは、1 年次であればテーマ設定にこの科目の学修がどのように行かせるか、2 年次であれば博士論文にこの科目で得た知見がどのように行かせるかを検討する。
・学生はスクーリングの後に、科目修得試験を受験する。この試験はレポート 1・2 を総合し、自身が教育現場での状況分析を踏まえ、学修内で学んだ課題の一つに対して理解と解決対策についての考えをまとめてもらう。

【評価方法】

合否については、レポート 2 本（50%）、科目修得試験（50%）で評価する。なお、評価する際は、スクーリングでの学修や学修過程での姿勢を含めて行う。

【教科書】

・八並光俊他著（2023）『Ｑ＆Ａ新生徒指導提要で読み解くこれからの児童生徒の発達支持』ぎょうせい
・下山晴彦著（2014）『臨床心理学をまなぶ 2 実践の基本』東京大学出版会
・伊藤美奈子（2022）『不登校の理解と支援のためのハンドブック:多様な学びの場を保障するために』ミネルヴァ書房
・日本学校メンタルヘルス学会編（2017）『学校メンタルヘルスハンドブック』大修館書店

ただし、学生の状況に応じて、適宜にテキストを変更、追加指定することもある。履修者はテキストを購入前に教員に確認すること。

【参考図書】

・加藤弘道編著（2022）『教育問題の心理学 何のための研究か?』福村出版
・岩滝大樹著（2022）『教育臨床と心理学-第 2 版:支える・学ぶ・教えるを科学する』学文社
・藤澤伸介編（2017）『探究！教育心理学の世界』新曜社
・R.B.メヌッティ他著（2018）『子どもの心の問題支援ガイド―教育現場に活かす認知行動療法』金剛出版

【教員メッセージ】

本科目は、学校によく出会うさまざまな問題をいかに臨床心理学的な視点を入れてみるかという授業です。自身の考え方の幅を広げ、多角的視点を身につける事ができます。多角的な視点はやがて博士論文をまとめる際に、考察を深めるのに役に立ちます。

【備考】

特記なし